

胆振のあらまし

◎位置

胆振総合振興局は、北海道の中南部にある東西152km、南北98kmの区域であり、南側の約218kmは太平洋に面した海岸線となっています。

隣接する(総合)振興局は、東部が日高、西部が渡島、北部が後志、石狩、空知、上川の各(総合)振興局となっています。



◎面積

面積は3,697km²で、本道の面積の4.4%にあたります。全道14(総合)振興局のなかでは檜山、石狩、留萌に次ぎ4番目に小さい面積ですが、奈良県(3,691km²)とほぼ同じ大きさとなっています。

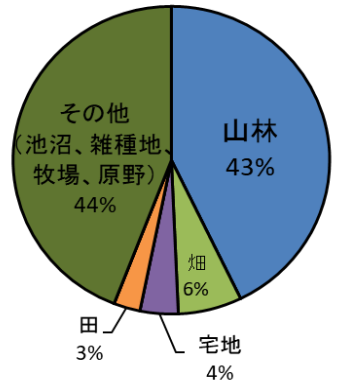
◎地勢

東部地域は、単調に続く砂浜沿いの平坦地から石狩平野に広がる勇払平野をはさんで、西に樽前山、支笏湖、東は波状丘陵地を経て、日高山脈へと続いています。

西部地域は、変化に富んだ海岸沿いの平地から内陸へ向かって丘陵地、山地と続き、ほぼ中央に洞爺湖、有珠山があり、東にはホロホロ山、オロフレ山、鷲別岳が南北に並んでいます。

地域	面積	構成比
① 十勝	10,831.62 km ²	13.0%
② オホーツク	10,690.52 km ²	12.8%
③ 上川	10,618.70 km ²	12.7%
④ 根室	8,500.39 km ²	10.2%
⑤ 釧路	5,997.08 km ²	7.2%
⑥ 空知	5,791.59 km ²	6.9%
⑦ 日高	4,811.16 km ²	5.8%
⑧ 宗谷	4,626.07 km ²	5.5%
⑨ 後志	4,305.87 km ²	5.2%
⑩ 渡島	3,937.48 km ²	4.7%
⑪ 胆振	3,697.04 km ²	4.4%
⑫ 石狩	3,540.15 km ²	4.2%
⑬ 留萌	3,445.89 km ²	4.1%
⑭ 檜山	2,630.27 km ²	3.3%

■地目別土地面積(胆振)



・国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成30年10月1日現在)による。
・根室振興局には、北方領土の面積を含む。

・平成29年1月1日現在「固定資産の価値等の概要調書(北海道総合政策部地域行政局市町村課)」による。

◎自然

胆振地域には、支笏洞爺国立公園に指定されているすぐれた景勝地があります。洞爺湖周辺では、有珠山、昭和山などが、国際的にも重要な火山現象と火山地形を呈しています。登別周辺では、登別地獄谷、大湯沼、倶多楽湖などから構成される、温泉郷独特のたたずまいを見ることができます。樽前山周辺では、樽前山と支笏湖が、森林と湖の静かな景観を形成しています。そのほか、都市近郊の湖沼や海岸線などにも、国指定鳥獣保護区やラムサール条約登録湿地に指定されているウトナイ湖をはじめとして、美々川流域、地球岬周辺など、質の高い自然が広く残されています。



■主な河川と湖沼

河川名	流路延長	湖沼名	面積
鶺鴒川	135.0km	洞爺湖	70.44km ²
厚真川	52.3km	倶多楽湖	4.68km ²
安平川	49.8km	ウトナイ湖	2.21km ²
長流川	46.8km		
穂別川	43.4km		

凡	例
	支笏洞爺国立公園
①	ウトナイ湖
②	美々川流域
③	地球岬周辺

(胆振総合振興局 室蘭建設管理部調)

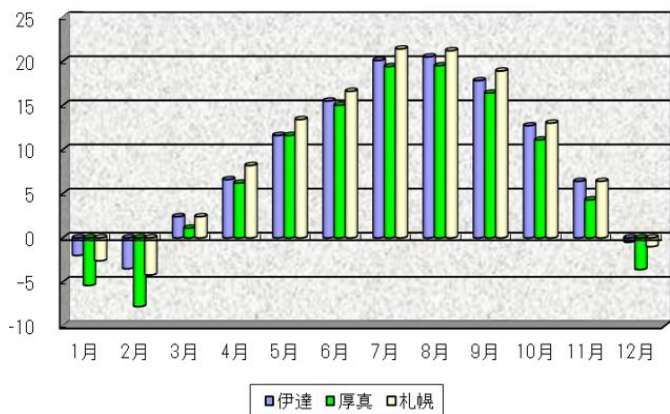
◎気 象

管内の気候は臨海性で、海霧の発生や冷涼な地域も含まれますが、積雪寒冷の厳しい本道にあっては、年間を通じて、温暖で暮らしやすい地域となっています。

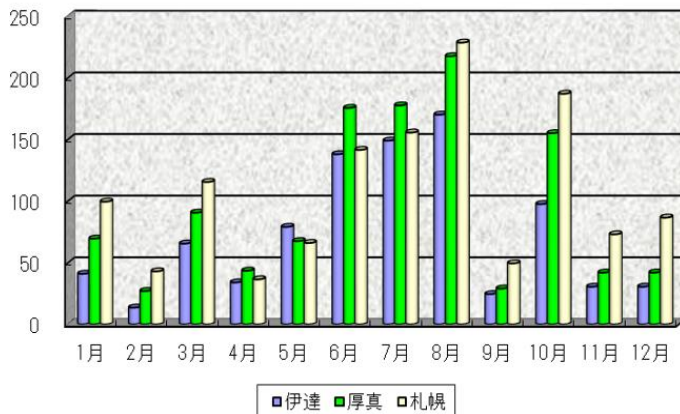
春の訪れは早く、夏のむし暑さはありません。秋は、さわやかで安定した気候が続き、冬は対馬海流の影響を受け、山間部の一部を除き温暖で、積雪量も少なく恵まれた気象条件にあります。

しかし近年は、高温傾向にあり、一時的な大雨も増える傾向が見受けられます。

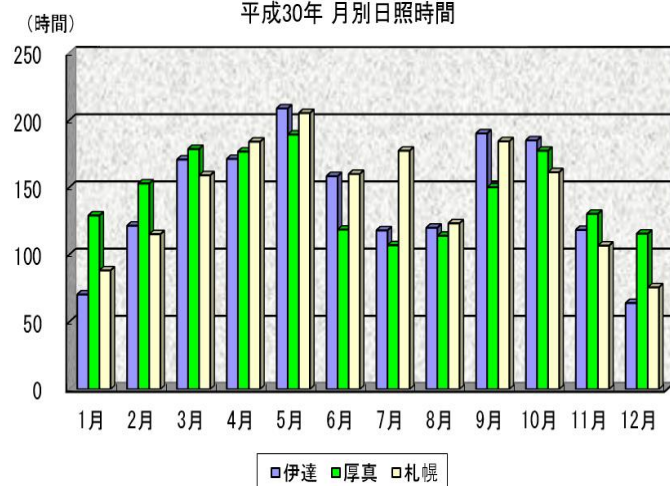
平成30年 月別平均気温



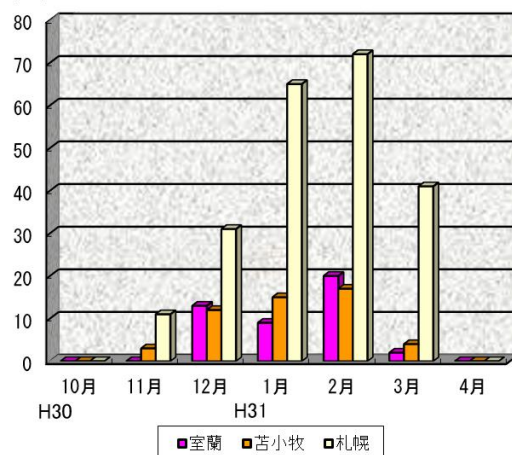
平成30年 月別降水量



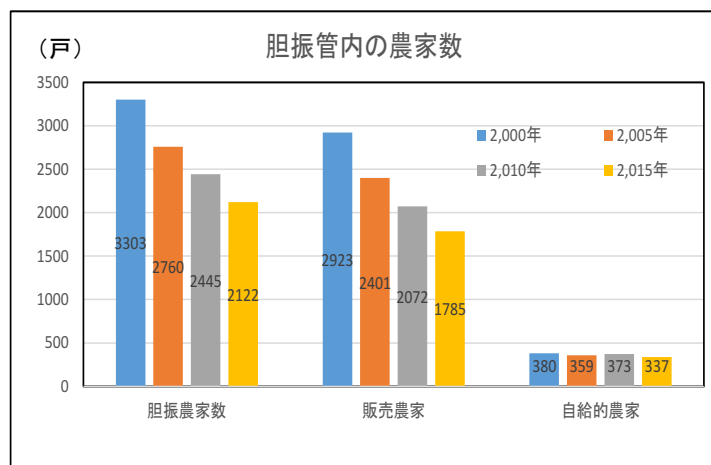
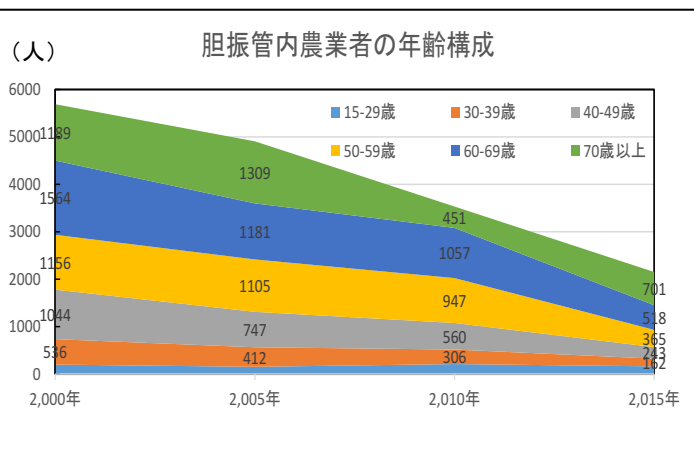
平成30年 月別日照時間



月最深積雪 (平成30年秋～平成31年春)



(各グラフは、気象庁アメダスデータにより作成)



(各グラフは、2015農林センサスより作成)